

自然環境と都市機能が融合した
“おおだて”

市制施行
60周年

環境先端都市を目指して



市長
小畑 元

市制施行60周年を多くの市民の皆様とともに迎えられた幸せを、心からかみしめたいと思います。

昭和26年に「日本最小の市」として産声を上げ、その後の昭和30年、42年の合併や平成17年の比内町、田代町との合併により、古くから深く親交のあった地域同士が、60年の時を経て一つになりました。

これまで4度にわたる大火に見舞われ、水害も数知れぬほど経験し、また、鉱山などの基幹産業の発展と衰退も味わいました。その激動の時々において、ともに喜び力を合わせ、様々な思いを共有しながら歩んだ歴史が、市民お一人おひとりの胸中にしっかりと刻まれておられるものと思います。

現在の大館市は、紛れもなく市民の英知と努力の結晶であり、これまでのご苦労が並々ならぬものであったであろうことに思いを馳せると、まさに万感の思いが去来します。

これまで多くの市民の皆様が築き上げた、美しい自然と都市機能の調和した大館を未来の子どもたちに引き継ぐために、決意も新たに全力を注いでいくことをお誓い申し上げます。

市の花

キク



昭和56年11月3日制定

市の木

秋田杉



昭和42年10月31日制定

市章



昭和29年7月1日制定

大館市の「大」の字を両翼に広げた形に作図し、「館」を「楯」に見立てて配し、大館市の飛躍発展と伸びゆく郷土を象徴したものです。